

I. 調査の実施概要

1. 調査の目的

市民の市政についての意見や評価を、意識調査により統計的に把握し、今後の市政を推進するための基礎資料とすることを目的に、調査を実施した。

2. 調査の設計

- 調査地域 甲賀市全域
- 調査対象 市内在住の18歳以上の男女・個人
- 調査標本数 3,000人
- 調査抽出法 層化二段無作為抽出法（抽出台帳：住民基本台帳、旧町5地域別）
- 調査方法 郵送配布・郵送回収
またはインターネット回答（回答用ID・パスワードを調査票に貼付）
- 調査時期 令和元年7月17日（水）～令和元年7月31日（水）

3. 調査票の配布・回収の状況

- 配布件数 3,000件
- 回収件数（率） 1,186件（39.5%）
- 有効回答数（率） 1,184件（39.5%） ※回収件数から無効票（白票）2件を除いた集計母数対象件数
うち郵送回収：1,062件（89.7%）、インターネット回答：122件（10.3%）

表1 インターネット回答内訳（性別×年齢別）

年齢	回収数		合計
	男	女	
18～19歳	3	2	5
20～24歳	5	8	13
25～29歳	4	6	10
30～34歳	4	8	12
35～39歳	10	8	18
40～44歳	9	2	11
45～49歳	8	4	12
50～54歳	10	2	12
55～59歳	6	4	10
60～64歳	8	2	10
65～69歳	2	0	2
70～74歳	2	0	2
75歳以上	5	0	5
合計	76	46	122

4. 標本抽出計画と集計にあたっての整理事項

①標本抽出計画と集計母数（集計対象数）

今回の調査では、標本数（アンケート送付数）を市内5地域の母集団構成比（人口比率 ※令和元年5月末現在の住民基本台帳登録人口（18歳以上）に基づく）に応じて配分した。

地域別の回収率（標本抽出数／回収数）を見ると、最も低い水口地域（34.9%）を除くすべての地域で前回（H30）より向上しており、最も高い甲賀地域では48.2%である。また、年代別の回収率では年代が若いほど回収率は低い。

表 2 標本抽出計画と集計母数（地域別）

	標本抽出計画				有効回答		
	母集団	母集団 構成比	抽出 標本数	標本 構成比	回収数	構成比	回収率 ※()内はH30
水口地域	33,622	44.2%	1,350	45.0%	471	39.8%	34.9% (35.3%)
土山地域	6,514	8.6%	240	8.0%	107	9.0%	44.6% (42.9%)
甲賀地域	8,619	11.3%	330	11.0%	159	13.4%	48.2% (42.7%)
甲南地域	17,231	22.6%	690	23.0%	284	24.0%	41.2% (39.0%)
信楽地域	10,109	13.3%	390	13.0%	158	13.3%	40.5% (34.6%)
不明・無回答	-	-	-	-	5	0.4%	-
合計	76,095	100.0%	3,000	100.0%	1,184	100.0%	39.5% (37.6%)

表 3 参考：標本抽出計画と集計母数（年代別）

	標本抽出計画				有効回答		
	母集団	母集団 構成比	抽出 標本数	標本 構成比	回収数	構成比	回収率 ※()内はH30
20歳代以下	11,169	14.7%	458	15.3%	87	7.3%	19.0%
30歳代	10,343	13.6%	416	13.9%	127	10.7%	30.5%
40歳代	12,814	16.8%	488	16.3%	149	12.6%	30.5%
50歳代	11,217	14.7%	435	14.5%	169	14.3%	38.9%
60歳代	12,232	16.1%	511	17.0%	265	22.4%	51.9%
70歳以上	18,320	24.1%	692	23.1%	384	32.4%	55.5%
不明・無回答	-	-	-	-	3	0.3%	-
合計	76,095	100.0%	3,000	100.0%	1,184	100.0%	39.5% (37.6%)

②調査結果の精度

今回の調査は標本調査のため、調査結果（標本測定値）から母集団の意識や課題、要望を推定することができる。ただ、標本（調査対象）抽出の際に生じる標本誤差を考慮したうえで調査結果を分析し、また母集団の意識や課題、要望を推定する必要がある。

世論調査では、信頼度95%（同じ調査で標本（調査対象）を変えて行った場合、100回中95回までは同様の結果が得られる（5回程度は異なる結果が出ることは許容される）と考えてもよい）の水準を求めるのが一般的とされている。

これに基づき、今回の調査における標本測定値の標本誤差は以下の数式で求められる。

■標本誤差について

- アンケート調査は標本調査であり、一定の範囲で誤差が含まれる可能性がある。それは下記の指揮によって与えられる。（信頼度 95%）

$$\text{誤差率} = 1.96 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p \times (1-p)}{n}}$$

（1.96 信頼区間、N=母集団、n=標本数、p=母比率）
※pは0.5のとき最大となるので、以下の計算では0.5とする。

調査の精度について、一般には次のような目安とされている。

標本誤差が5%以下=非常によい
5%超~10%以下=よい
10%超~20%以下=ややよい
20%超=悪い

上記の式に必要な数値をあてはめて計算すると、誤差率は2.8%という数値が得られ、調査の精度としては「非常によい」とされる水準となる。

5. 本報告書における集計方法、数値の取り扱いについて

- 比率はすべて、各設問の不明・無回答を含む集計対象者数（副問では当該設問回答対象者数）に対する百分率（%）を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問（複数回答設問）では、百分率（%）の合計は、100.0%を超える場合がある。
- 百分率（%）は小数第2位を四捨五入し、小数第1位までを表示した。1つだけ回答を求める設問（単数回答設問）では、四捨五入の関係上各選択肢の百分率（%）の合計が100.0%にならない場合がある。
- 問7、問8、問10、問11、問12、問13、問14、問15、問20、問21、問29、問31に表示する再集計比率は、四捨五入の関係でグラフ中に表示する比率の合計と一致しない場合がある。